

大阪成蹊大学

大阪成蹊大学 新学長 中村佳正 教授 就任のご挨拶

データサイエンスが拓く 新しい学び



本年4月より大阪成蹊大学学長に就任しました中村佳正です。学園創立90周年、また駅前新キャンパスと2つの新学部開設という節目の年の就任で一段と身が引き締まる思いです。

さて、一般に科学技術は、真理をめぐる探究や環境問題・エネルギー問題といった人類共通の課題の解決に向けて新たな知の獲得をめざすことで発展してきました。データサイエンスもそのような科学技術のひとつですが、大きな違いがあります。それは、提案する新たな価値への社会の評価や認知を得ることを通じて、データサイエンスの世界が広がってきたという側面です。辞書を引く代わりにインターネットのデータ検索で「グ

ぐる」ようになったことを思い出してください。

このような学問的性格の違いにより、これまでの大学教育とデータサイエンス教育とは少し異なるものになる可能性があります。例えば、データサイエンスによって新しい価値を提案する上で大事な理解力・想像力・構想力などは、豊富な良い事例のケーススタディを通じて実践的に養われていきます。また、データサイエンス教育の基盤は急速に変化・発展しており、大学で身に付けるべき情報リテラシーはプログラミング言語やツールの操作方法といった情報技術そのものではなく、その背後にあるデータサイエンスの考え方ということになります。

2023年に入った頃から私のまわりでも生成AIのChat(チャット)GPTが話題になることが多くなりました。データ検索では、調べたいことに関連するサイトがリストになって出てきて、我々はその中からサイトを選んで必要な情報を読み取っています。しかし、Chat(チャット)GPTは、質問に対してかなりの確率で内容を自動的にとりまとめて回答します。画像生成や音声で回答する生成AIも開発されているようです。Chat(チャット)GPTは

インターネット上にある大量の文章(ビッグデータ)をAIで事前学習した上で、文章生成においてある単語に続く別の単語を過去のデータから見た出現確率が一番大きくなるように選んでいきます。それだけだと間違いや不適切な表現が多くなるので、強化学習という手法を用いて人間からみて常識的で安心できるような表現となるようにフィードバックをかけます。

生成AIを使った新規のビジネスを考える人々が出てくると同時に、国や企業、大学によっては規制の必要性を議論しています。しかし、いったん動き出したこの流れは留まることはなく、知的作業だけでなく、今後の働き方・職業選択、産業構造や社会の成り立ちにも大きな影響がでてくると予想されます。「ググる」から、GPTで「ジビる」に変わりつつあるのかもしれない。

我々は生成AIの回答を鵜呑みにしないように、(間違いに気がつくだけの)専門的な知識と社会的な常識を身に付けておく必要があります。逆に、専門知識と社会常識をもっていれば、生成AIを使いこなすことで、大学での学びを格段に向上させることができるでしょう。大学は生成AIという新しい可能性を手に入れたのです。

大きく変化する時代に大阪成蹊大学もまた大きく発展させていきたいと思っています。



食堂



図書館



多目的ホール



駅前新キャンパス

大阪成蹊大学 データサイエンス学部 学部長 吉川正俊 教授 就任のご挨拶

21世紀はデータの時代

4月に新設されたデータサイエンス学部の学部長を拝命しました。研究分野はデータベースであり、最近ではパーソナルデータの保護と活用に興味を持っています。

私は、日本で大学に情報系学科が設置された初期に情報工学科を卒業しました。その後、関連する学問分野や産業は爆発的な発展を遂げ、多くの大学で情報関連の学部などが開設されてきました。私のこれまでの歩みはその大きい流れに沿う形で、教員として4つの大学に勤務し、情報関連の新たな大学、研究科、学科、センターの新設時を経験しました。新設される組織を軌道に乗せるのは大変ですが最初から作り上げていく楽しみも大きく、今回もそのような機会を頂いたことに感謝しております。

センサー等を始めとする情報機器の高精度化、小型化により、社会活動のあらゆる側面においてデータの取得が可能となり、データをいかに活用するかが組織の命運を握るようになってきました。これはその組織が属する産業分野に依らず普遍的なものです。20世紀は石油の時代であり21世紀はデータの時代だと言われることがあります。石油は埋蔵量に限りがありますが、データは増加する一方です。

社会や組織が解決すべき課題の多くが、データに裏付けられた証拠に基づく、より確度の高い意思決定を必要とします。そのためには、最初に課題発見をし、その課題を解決するために膨大なデータの中から適切なものを収集、加工、分析した上で、その結果に基づ

き行動し課題解決を行う必要があります。データサイエンス学部は、このような課題発見から解決に至るすべての過程を担当できる人材を育成することを目標としています。

前世紀の終わり頃から始まった情報革命は産業革命に匹敵すると思いますが、昨今のChat(チャット)GPTを始めとする生成AIの動きなどを見ていると、革命がまた新たな局面を迎えていることを実感します。この局面が社会に何をもたらすかは未知数ですが、教育への影響も大きいと予想されます。今後、高等教育自体が無くなることは考えられませんが、明治以来の教育の形態に変化と多様化の波が訪れることは時間の問題でしょう。



データサイエンス学部は、そのような大きい変革の時代にあっても普遍的に必要な知識やスキルを身に付けることにより、これからの社会の中核を支える人材を育成して行きたいと考えています。入学からこれまでの様子を見て第1期生には大いに期待しているところです。